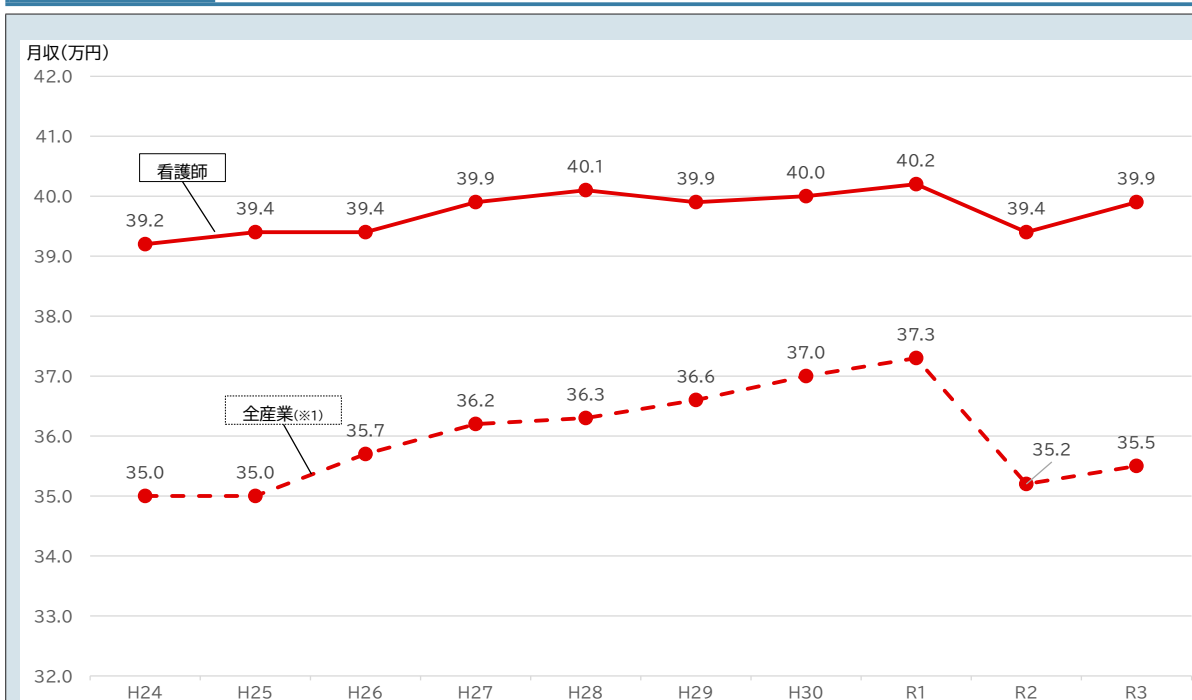


(看護師の平均賃金は、平均勤続年数が他産業を下回る35歳以上は全産業計に比べて上昇しにくい傾向)

看護師の平均賃金は職種計を上回って推移しており、2021（令和3）年は月額39.9万円となっている（図表1-2-24）。一方で年齢階級別の平均賃金をみると、平均勤続年数が他産業を下回る35歳以降は、全産業計に比べて賃金上昇しにくい傾向がある（図表1-2-25）。年齢階級別の平均賃金の状況に関しては、管理的立場にある看護師の賃金が相対的に低いこと、民間の医療施設であっても国家公務員の医療職の俸給表を参考としている場合が多いことといった指摘もある^{*27}。

図表1-2-24 職種別平均賃金（役職者除く）（月収換算）



資料：厚生労働省（統計・情報政策、労使関係担当）「賃金構造基本統計調査」（平成24年から令和3年までの各年で公表されたもの）により厚生労働省政策統括官付政策立案・評価担当参事官室において作成。

（注）いずれも一般労働者（短時間労働者を含まないもの）で、役職者を除いた数値。

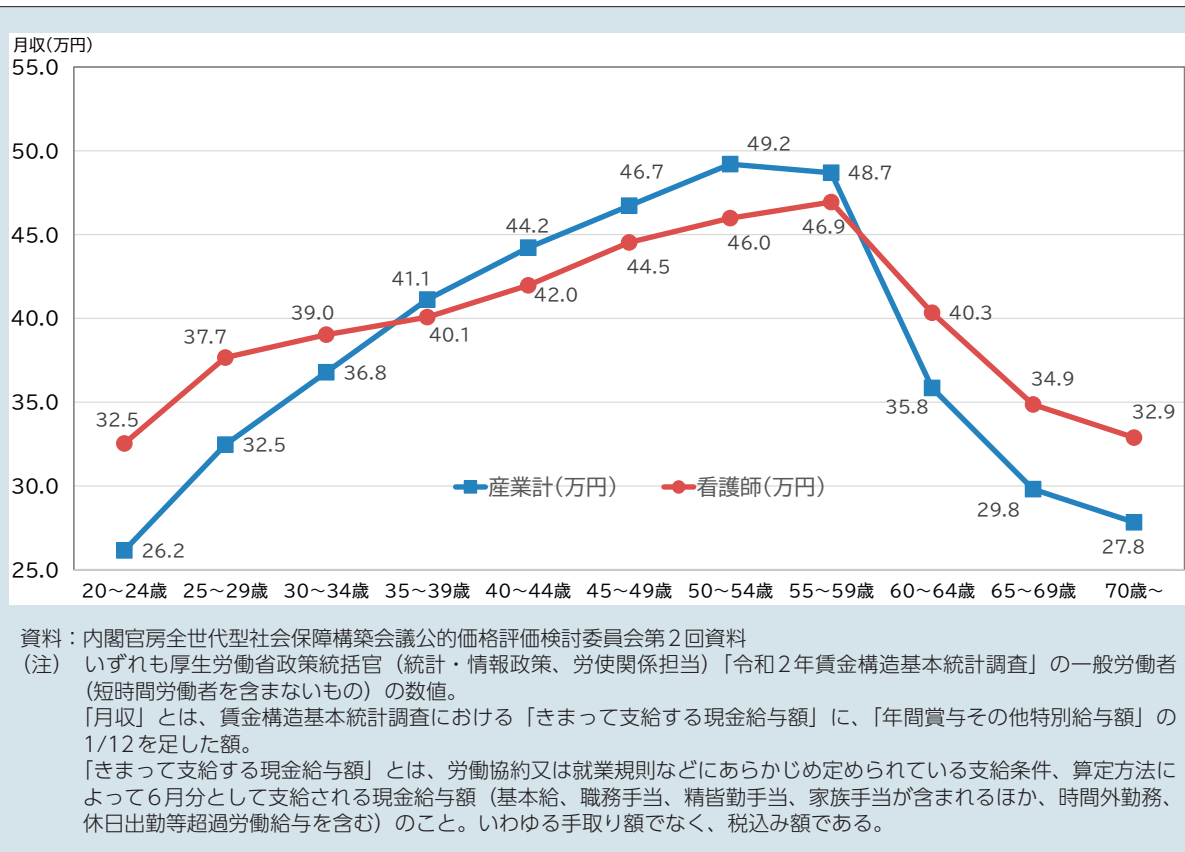
「全産業」は、令和元年までは100人以上の企業の役職者、令和2年からは10人以上の事業所の役職者を除いた数値。「月収」とは、賃金構造基本統計調査における「きまって支給する現金給与額」に、「年間賞与その他特別給与額」の1/12を足した額。

「きまって支給する現金給与額」とは、労働協約又は就業規則などにあらかじめ定められている支給条件、算定方法によって6月分として支給される現金給与額（基本給、職務手当、精皆勤手当、家族手当が含まれるほか、時間外勤務、休日出勤等超過労働給与を含む）のこと。いわゆる手取り額でなく、税込み額である。

（※1）「全産業」は、産業別データの「産業計」から役職別データの「役職計」を除いて算出したもの。

* 27 内閣官房全世代型社会保障構築会議「公的価格評価検討委員会 中間整理」（2021（令和3）年12月21日）

図表 1-2-25 看護師の年齢階級別平均賃金（役職者含む）（月収換算）



4 薬剤師

（薬局数と薬局に従事する薬剤師が増加）

薬剤師数は2020（令和2）年現在で、32万1,982人となっている^{*28}。就業場所別に見ると、薬局は18万8,982人と約6割を占め、医療施設は61,603人、医薬品製造販売業・製造業は27,331人、医薬品販売業は11,713人、大学は5,111人となっている（図表1-2-26）。大学薬学部数及び入学定員数や、薬局数と薬局に従事する薬剤師数も増加している（図表1-2-27、図表1-2-28）。

*28 日本国内に住所があって、薬剤師法（昭和35年法律第146号）第9条により届け出た薬剤師数。厚生労働省政策統括官（統計・情報政策、労使関係担当）「医師・歯科医師・薬剤師統計」（2020年）



生きるを、ともに、つくる。
公益社団法人 日本看護協会

2024年度「看護職員の賃金に関する実態調査」結果 看護師のベースアップの低さが浮き彫りに 2012年調査から、基本給の増加はわずか6,000円 業務に見合わない賃金の低さが就業継続を困難に

公益社団法人日本看護協会（会長・秋山智弥、会員73万人）は、2024年時点の看護職員の評価・処遇の現状や改善状況を把握するとともに、看護職員の確保・定着に必要な賃金や処遇、およびキャリアアップに伴う処遇改善を推進していくための課題、方策を明確化することを目的として「看護職員の賃金に関する実態調査」を実施しました。

本調査は、施設調査（病院調査、訪問看護ステーション調査）および個人調査からなり、施設調査では、各施設における看護職員の賃金や処遇の実態、改善状況などを把握するとともに、個人調査では看護職員の賃金や各種手当の実態、賃金に関する満足度、就業継続意向などについて調査しました。

報道関係の皆さまには、調査の趣旨をご理解いただき、さまざまな機会にご紹介くださいますよう、お願い申し上げます。

主な結果

- 2012年の「病院勤務の看護職の賃金に関する調査」（以下、2012年賃金調査）と比較すると病院勤務のフルタイム正規雇用・非管理職の看護師の基本給は6,000円の増加、上がり幅は約2.3%にとどまる。税込給与総額および新卒看護師（3年課程卒）の初任給（基本給月額）はそれぞれ約8%の増加。【P. 3、図表1】
- 病院勤務者の2012年賃金調査における年齢による基本給月額の上昇率は、20代前半を100%とした場合、50代前半で145%だったが、本調査においては、ピークとなる40代後半29万7,249円と比較しても、134%の上昇率に留まる結果となった。【P. 3、図表2-1】
- 病院において、新卒、正規雇用職員とも賃金額が低いほうが離職率が高い傾向にあった。【P. 8、図表14、15】
- 夜勤手当額はこの10年間で、2交代で約1,000円、3交代で約500円のための増加。【P. 12、図表23】
- 訪問看護ステーション勤務者の賃金は同年代の病院勤務者と比較すると低かった。【P. 4、図表2-1、2-2】
- 病院勤務者の賃金満足度は全体的に「不満」「やや不満」という回答が多く、特に業務量や他業種も含めた同年代・同性の賃金と比較について不満の割合が高かった。【P. 20、図表41-1】
- 2012年賃金調査における賃金に対する全体的な満足度について、「満足」「やや満足」が25.5%であったのに対し、今回調査の同割合は11.8%と減少。【P. 21、図表41-2】
- 賃金満足度が低いほど退職を考えている割合が高い傾向にあった。【P. 20、図表40】
- ベースアップ評価料を原資とした、病院における2024年度から2年間のベア率は「2.0～3.0%未満」が18.9%、「4.0～5.0%未満」15.9%となっており、平均は3.48%だった。【P. 24、図表47】